

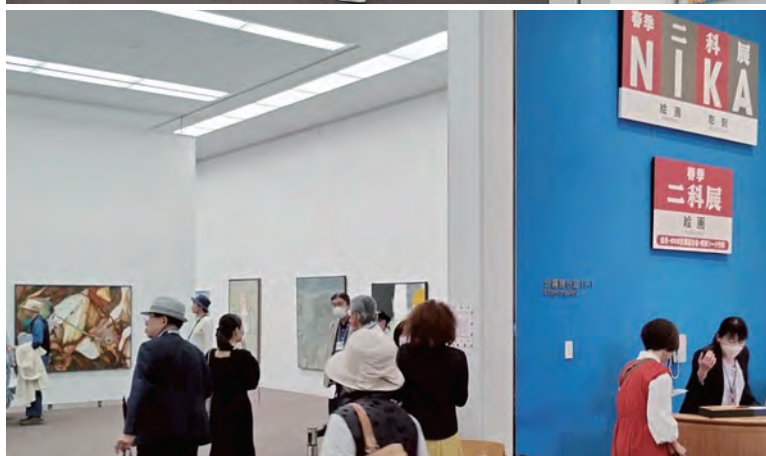
No.84 contents

- 2 〈絵画〉総評 作品も展示もたゆまぬ進化を求めて
- 4 〈絵画〉受賞作品寸評
- 5 2025春季二科展 受賞者・選抜出品者
2025春季二科展 支援講座・ワークショップ
- 6 〈彫刻〉総評 ローマ賞 研修報告
- 7 〈彫刻〉前年度受賞選抜者作品
- 8 第108回二科展巡回展
- 10 第47回定時会員総会・部会報告
- 11 計報 第109回二科展日程表・巡回展日程(予定)
出品規約QRコード
- 12 第109回二科展 企画案内
(支援講座・休憩室企画・U35ユースの会)
会員作品絵葉書作成参加のお願い S20号受賞作品展示
二科展 入場料改定のお知らせ 事務局日より 編集後記



春季

発行人：生方 純一 発行：公益社団法人 二科会
<https://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646
 E-mail：nika@nika.or.jp



2025
春季二科展



2025春季二科展

2025. 4. 18～5. 2 東京都美術館

絵画部

2025春季二科展

生方純一

春季展は元来、会員が実験的な作品を発表し、研究する場としていたが、近年は前年の本展での受賞者の中から選ばれた作家の新作を展示するコーナーを設け、会員の投票により、春季二科賞、春季賞を与え奨励している。

他に昨年から会友・一般出品者を対象に「S20号」コンクールコーナーを設けているが、今年は前年に増して出品者が多く、厳選になった。作品の内容も多岐にわたり、優れたものが多かったが、展示スペースの関係もあり、厳選せざるを得ず、涙した作品も多かった。「S20号」最優秀賞はじめ優秀賞4名、佳作10名の他に鑑賞者の投票によるオーディエンス賞が選ばれた。

個展ブースは前年の本展での高位受賞者4名の実力者による展示で、見応えがあった。唯一残念に思ったのは、不出品会員が45名と多く、出品された作品もサイズが小さく、迫力に欠けたことである。

絵画部

作品も展示もたまめ進化を求めて

山中宣明

2025春季展も初日には選抜者授賞式やトーク、会場全体の見どころを紹介するギャラリートツアー等のにぎわい、最終日は豪雨にもかかわらずオーディエンス賞の授賞式、受賞作家紹介に多くの参加者があり盛会裏に終了することができました。今後の課題を含めて今回の二科展を振り返ってみたいと思います。

①会員作品

今回は実験的なフリースペースの精神を継承し、12・13室に実験的作品・個性的な作品の展示や、具象傾向、抽象傾向の部屋で特徴づけ、会員力作の多様な価値観をアピールしました。

②選抜作品

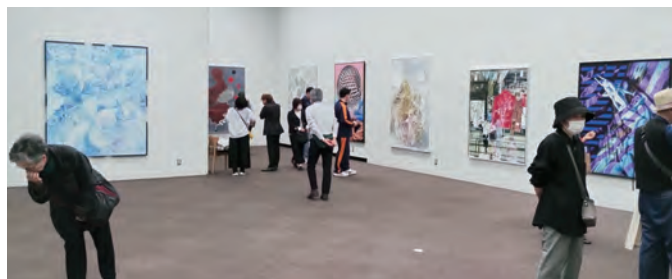
108回二科展の受賞者から会友10名・一般26名の選抜者を1・3室に展示し、会員投票により春季二科賞1名、春季賞3名が受賞し、最高賞の澤登千代子さんの精緻な描写の大作をはじめ、いずれの受賞者も独自の世界を繰り広げている秀作でした。来年はさらにF130号の大作に挑む選抜

者が増えてほしいところです。来期は1室もさらに広くし更にインパクトとスケール感のある展示を目指す予定です。

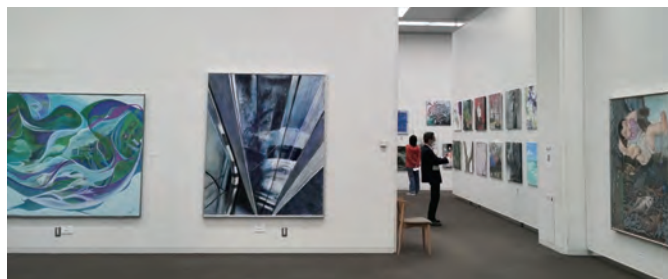
③S20号部門

一枚の絵を観る時間

春季特別企画のNIKA+nika S20も2年目を迎え、浸透し春季展の顔となり、出品者は53名増の299名・出品点数も109点増の463点の応募があり、昨年よりさらに厳選となり、179名(2点入選11名)がめでたく入選し、この企画への関心の高さが証明されました。会員投票により最優秀賞の笹島裕美さんが中和ギャラリにて企画個展開催決定、優秀賞4名は帝国ホテル二科アートのスポットに特別展示、佳作や入場者の人気投票によるオーディエンス賞4名の受賞者も第109回二科展において展示されます。特にS20号の入選者・受賞者は家族・知人・友人なども見に来られて、観客動員の功労者であったといえます。またオーディエンス賞の人気投票により、一点一点じっくり時間をかけ



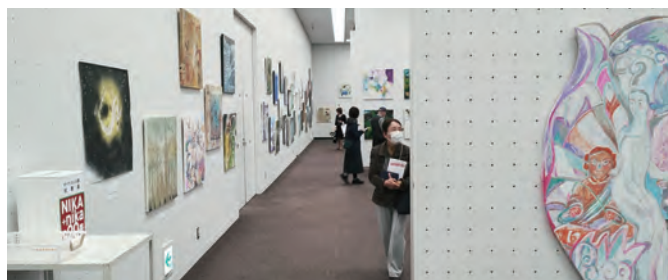
選抜作品 展示1室



選抜作品 展示2室からNIKA+nika/S20展示室へ



4つの個 今野真由美会友トーク



展示8室からS20展示室へ オーディエンス賞投票箱



会員作品 展示8室



4月18日 ギャラリーツアー

て鑑賞する人が多く、滞館時間の長い参加型展覧会の実現にも大きく貢献してくれました。展示場所も4、7室に移し、若手会員中心にインスタレーション的展示の工夫を凝らし大変好評でした。搬出時には会員が懇切丁寧に今後の方向性や具体的改善点をアドバイスをし、入落にかかわらず出品者は再チャレンジの意欲を高めて帰る姿が印象的でした。今後も全国支部でもフオローに取り組み、本展への出品奨励にもつながっていかば、この企画の意味や存在意義もさらに高まると思います。100名を超える落選者の中にも入選者と優秀付けがたい可能性を感じる若手出品者も多く、新傾向の作品などにも着目できる審査の眼、審査体制の重要性を強く感じました。

最後に、陣頭指揮をとられた生方理事長はじめ理事各位、展示委員、会員、事務局による総力体制の尽力に感謝し、春季展が作品も展示もたまめ進化・改革を求め続ける場であり続けることを願い、総括とさせていただきます。

④4つの個
今回は会員の第108回大臣賞受賞者の濱田進理事、都知事賞受賞者の石関和夫会員、特別賞受賞者の武部美智子新会員・今野真由美会友の4人による個展形式展示の特別企画でしたが、卓越した描写力や個の顔・画力が明確に見えて、観客に感動を与え絵画部の春季展示を締める役目を果たしました。今後も公募団体における「個」の打ち出しは重要な課題です。



3月29日 S20審査風景



4月17日 S20会場レイアウト



4月18日 S20最優秀賞 笹島裕美さん



5月2日 オーディエンス賞1位 生方理事長小品の副賞



S20個人搬出口 生方理事長・中島常務理事



S20個人搬出口で作品アドバイス

2025春季二科展 受賞作品寸評



澤登 千代子 「ハス」 F130

春季二科賞 澤登 千代子

画面全体の下地に鉛筆やペンで植物の肉付けハッチングを施している。その上から薄塗りで何層もの色を重ね塗りし、植物の柔らかな質感を表現している。中間色の繊細な色調の変化が画面全体に浸透し、穏やかで美しい作品になっている。丁寧な仕事ぶりに好感が持てる。(柏谷 正一)



植草 正利 「BOUNDARY IV」 S100

春季賞

植草 正利

背景の板壁の前に棚らしきものがあり、その棚に厚塗りで植物らしきものが群生している。それが塊となり画面右上から左下に増殖しているように描かれている。全体の色調は深いグレーを基調としているが、キラリと見える青や紫が画面に色の深みを加えていて効果的である。(柏谷 正一)



福岡 侑恵加 「波戯」 F130

春季賞

福岡 侑恵加

写実的絵画の中心課題は肉眼であれデジタル情報を使うのであれ、視覚情報そのものの^{のみ}を抽出して画布に置く事にあると言っても過言では無い。情報を分解抽出し水面の煌めきや水しぶきの形を画布に乗せて視覚的效果を導く技法と併せて現代的な作品である。(田川 絵理)



島村 薫 「flowerscape」 F120

春季賞

島村 薫

視点のゆらぎから認識のゆらぎへと心を彷徨わせた柔軟な発想があり、一方でそれを堅牢な描写が支えていて鑑賞者に安定と安心感を与える。この作品もデジタル機器の情報を使用していると思われる。作者の今後の関心が何処へ向かっていくのか待ちたい。(田川 絵理)



笹島 裕美 「揺籃時代Ⅱ」

S 20最優秀賞 笹島 裕美

疎と密のバランスの構図の面白さ、複雑に入り組んだ繊細な線の中に親子関係が垣間見える。何よりも鉛筆という画材でこれだけの表現が出来ることに感嘆させられる。(岩田 博)

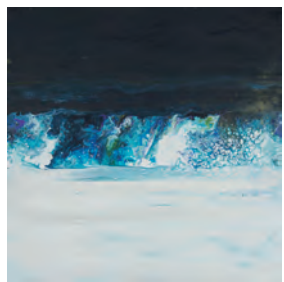


瀬川 ゆかり 「隠れ家の森」

S 20優秀賞 瀬川 ゆかり

程良い存在を示す鳥、抑えた色彩は品格を感じる。茂みの中に人が隠れているのも遊び心があって面白い。絵画の本質的な魅力を感じて詩情豊かな作品。(寺田 眞)

(寺田 眞)



番場 美和子 「シグナル」

S 20優秀賞 番場 美和子

展示の作品をみながらシグナルの意味を考えていた。画集(25頁)を観て一本の銅線が消えていた。実際に作品を鑑賞する事の大事さを痛感した。(森岡 謙二)

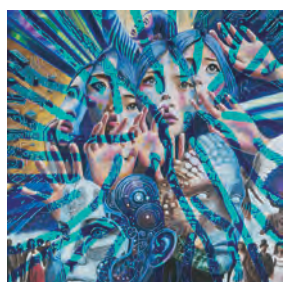


谷 いつ美 「迷宮」

S 20優秀賞 谷 いつ美

抽象のようだが、よく見ると扉や標識等が描かれ、マチエール、描線いずれも手慣れて色彩と共にセンスの良さを感じる。大作が見たいと思う。(寺田 眞)

(寺田 眞)



平山 輝 「助けてほしい?」

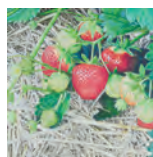
S 20優秀賞 平山 輝

顔、手、のムーブのめぐりの線、それに合わせる様に色彩も動き、すべての視点が静かに廻る。マチエールもしっかり描き、幻想な世界を創り上げている。(森岡 謙二)

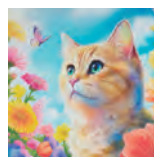
■ S 20オーディエンス賞



前川 普佐雄



高尾 小百合



竹澤 一郎



安井 陽子

2025春季二科展 受賞者・選抜出品者

絵画部

◆4つの個

(会友)

濱田 進〔長野〕

石関 和夫〔群馬〕

武部美智子〔青森〕

(会友)

今野真由美〔神奈川〕

◆前年度選抜者

(会友)

伊藤 須美〔兵庫〕

森 泰秀〔佐賀〕

井上 貴義〔福岡〕

島村 薫〔兵庫〕

須佐美恵子〔大阪〕

荒井 洋子〔富山〕

奥州谷啓子〔東京〕

鈴木 健一〔京都〕

橋本 則子〔京都〕

畑中 良二〔宮城〕

(一般)

今泉歌奈子〔愛知〕

植草 正利〔千葉〕

大野 厚代〔愛知〕

彫刻部

(会友)

丸山 恵美〔新潟〕

井上なぎさ〔神奈川〕

澤登千代子〔千葉〕

S20 最優秀賞
笹島 裕美〔石川〕

植草 正利〔千葉〕

S20 優秀賞
瀬川ゆかり〔京都〕

福岡佑恵加〔愛知〕

番場美和子〔新潟〕

島村 薫〔兵庫〕

谷 いづ美〔東京〕

大森 恵〔静岡〕

平山 輝〔大阪〕

小野唯希子〔大阪〕

服部由美子〔東京〕

鎌井 理香〔三重〕

長井美絵子〔東京〕

河瀬 順子〔愛知〕

森本 啓子〔広島〕

楠本加津江〔大阪〕

奥州谷啓子〔東京〕

久保 孝彰〔鹿島〕

清 尚子〔静岡〕

久保寺二三〔京都〕

中 三保子〔北海道〕

坂井 雅子〔茨城〕

与 一〔静岡〕

佐々木光子〔大阪〕

佐川 修一〔千葉〕

澤登千代子〔千葉〕

高岡 次子〔茨城〕

篠原 説子〔兵庫〕

小野寺さゆり〔宮城〕

津野 勝己〔宮崎〕

高岡 次子〔茨城〕

富田 淳子〔愛知〕

高岡 次子〔茨城〕

馬場 美芽〔大阪〕

高岡 次子〔茨城〕

平山 輝〔大阪〕

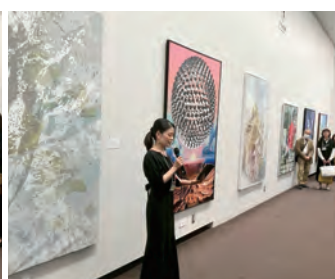
高岡 次子〔茨城〕



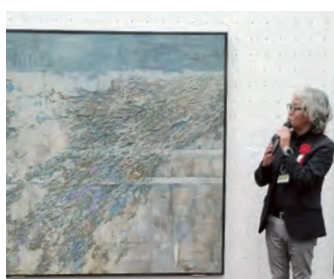
オーディエンス賞 授賞式



春季賞 島村 薫さん



春季賞 福岡佑恵加さん



春季賞 植草正利さん



春季二科賞 澤登千代子さん

2025春季二科展 支援講座・ワークショップ 4月29日(火・祝) 於：東京都美術館 スタジオ

森岡 謙二

人に教えることは自分の学びになると粕谷先生、今回講座を担当してなるほど実感した。コラージュをテーマに取り上げた。ピカソ、ブラックが導入したと言われるコラージュの作品を作る表現技法があり、それが材料となる。デカルコマニー、スパッタリング、吹き流しなどがあるが、当日に実践できるのはフロタージュが良い。こすり形を写し出す方法である。絵具を利用するものは事前に自分で準備し、絵具をベタベタ、網でガサガサ、ストローでフーフー等、疲れたけれどもおもしろかった。各人が持参した肖像画を中心に材料を貼り付けた。オリジナルな作品が仕上がってゆく。楽しく、興味を抱くアーティスト達、教えられることばかりである。

五味 祥子

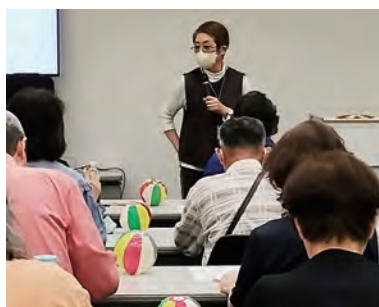
始めのデッサン用鉛筆削りが難関の様子。まずイメージのみでキューピーを描く。次にじっくり観察し描いた絵とを比較。最後に全員の絵をイーゼルに並べた時、爆笑が起き一気に緊張が解れた。実に愉快的なキューピー達がそこに並んだから。イメージと描写の大きな違いが実感できたと思います。

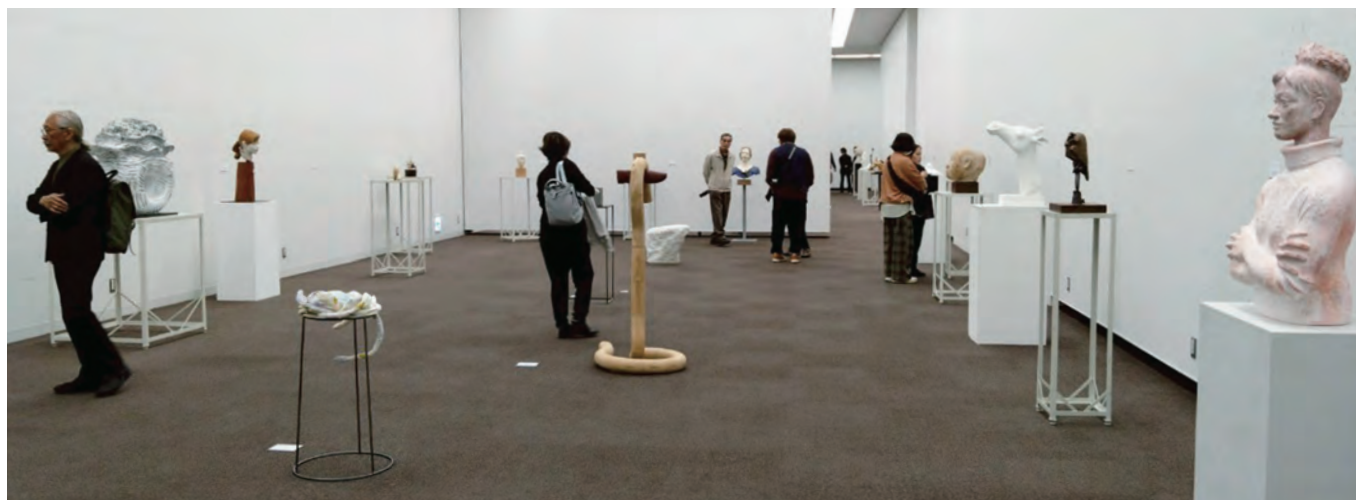
森岡謙二 支援講座・ワークショップ 午前10時～

「コラージュ思考であなたの表現を変える！コラージュと貼り絵は違う！」

五味祥子 支援講座・ワークショップ 午後2時～

「あなたの描写力をUPしてみませんか」





彫刻部 展示室



彫刻部 展示室



彫刻部

2025春季二科展

総評

前田 耕成

2025年春季二科展は、新緑の上野公園内東京都美術館で4月18日から5月2日まで開催されました。

彫刻部では会員、会友と昨年108回展の受賞者が招待出品して、総数63点が展示されました。全体の展示の様子は、かぎ型の展示会場に台座使用のコンパクトなサイズの作品が壁側に並べられ、中央には比較的広い空間を必要とする作品が置かれてありました。多種多様な表現様式が混在する彫刻部の作品群の展示

風景ではありましたが、個々の作品に十分な空間が与えられたせいか、展示環境に違和感や圧迫感はありませんでした。

展示された一点一点の作品を見ていくと、最初に従来の彫刻概念を超えた招待作家の作品に目を奪われます。時代の推移とともに彫刻自体も変化していくことを実感しました。毎回春季展は出品者の実験の場とされています。展示された作品には普段使っている素材やモチーフ自体を変えたものが目立ちました。まさにこれは作者にとっての実験であり、作者の制作に対する挑戦と意欲が強く感じられました。そしてそれらの作品は、作者の彫刻におけるリアリティー、造形力とそれを支える確かな技術力によって良質な作品として存在し、新たな創作のエネルギになるのだろーと思えました。

研修旅行を終えて

（第107回展 ローマ賞）
廣瀬 友彦

ローマ賞 研修報告

昨年末から今年にかけてイタリア各都市とパリに半月ほど研修旅行に行ってきた。今回の美術館巡りの中で、特に心を動かされた作品をあげてみます。

先ずフィレンツェのマリノ・マリニ美術館の彫刻です。留学時代ミラノの美術館に展示されていたマリニ作品は何度か観ていましたが、今回は当時の印象を超えるものでした。マチエールの一つ一つがフォルムを強調し、面を構成している。そしてその面が大きな動きのある空間を表現していました。

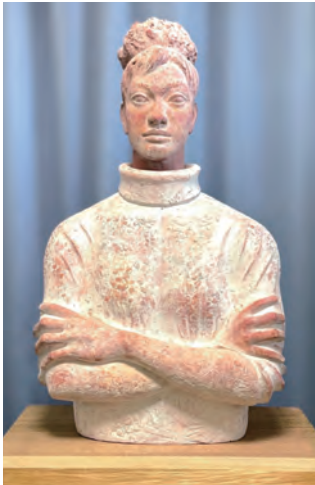
次にパリのブルードル美術館の作品です。ブルードル彫刻は東京の西洋美術館にもありますが、ブロンズ像にする前の原型（石膏）を観たのは初めてでした。特に「アポロンの首」などの頭部作品には驚きました。作品全体は石の様に硬い質感ですが、顔の張りや彫刻刀で少し触れるだけではじけてしまうかと思う程の緊張感（生命感）が表現されていました。

そしてミラノのスフォルツェスコ城にある「ロンダニーニのピエタ」です。ミケランジェロが天に召される最後まで彫り続けた作品と言われています。具象作品ですが抽象彫刻とも思える作品です。死を迎える荘厳なかたちが刻



システナナ礼拝堂

2025春季二科展 彫刻部 前年度受賞選抜者作品



梅田 勝裕
「Premonition of spring」



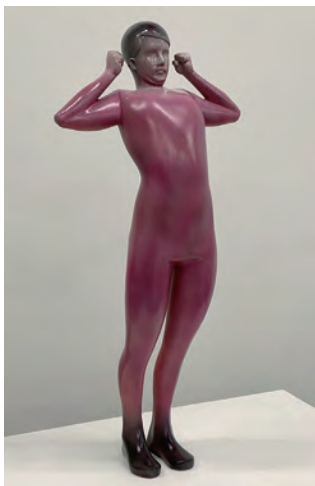
井上 なぎさ 「太郎の長い午後」



丸山 恵美 「ねむり姫」



岩村 明子 「アニマルハンバーガー＆ポテト」



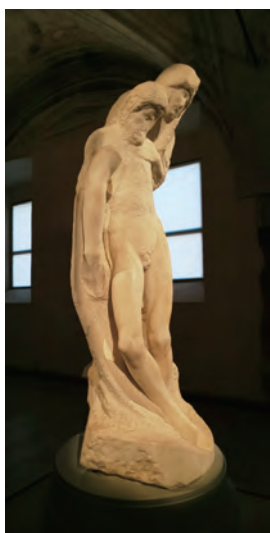
笹井 南海
「TOY (thinking of you)」



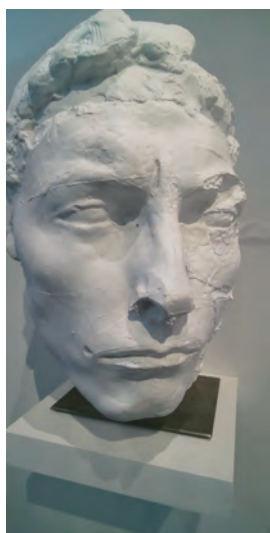
保坂 航子 「《残響》(Echo)」



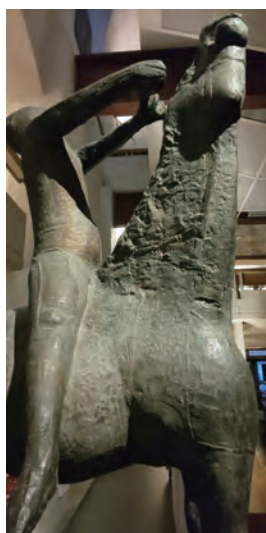
中村 葵 「茸麟—きりん—」



「ロンダニーニのピエタ」



ブルーデル美術館



マリノ・マリニ美術館

まれていました。
他にも印象に残った作品はルーブル美術館やパチカン美術館などにありました。

生時代に感銘を受けた作家達ロダン・マイヨール・ブルーデル・ブランクーシ・サツキン・ジャコメッティ・ミケランジェロ・マリノマリニ・ファツィーニ・グレコ・ミンゲッチー・クロチエッティの作品と再会し新たな感動を得る事が出来、留学時代の自分とも対話することができました。

研修旅行では多くの彫刻作品を観ることで、エジプト・ギリシャ・ルネサンス時代の大きな流れが現代イタリア彫刻や現代フランス彫刻に通じていると改めて感じることが出来ました。また、学

2024第108回 二科展巡回展

108TH NIKA ART EXHIBITION



第108回巡回東海展は4,689人の入場者を得て、連日熱気あふれる風景を見ることが出来た。初日の10月22日に、コロナで開けなかったパーティーを5年ぶりに開催した。会場はヒルトン名古屋28階に二科出品者、絵画、彫刻、デザイン、写真、合わせて126名、又来賓8名の出席も得て会は大いに盛り上



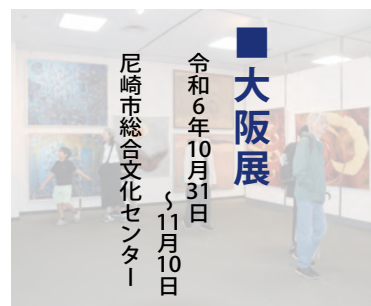
東海展

令和6年10月22日
～10月27日
愛知県美術館ギャラリー

がり、楽しい一時を過ごす事が出来た。来賓代表CBCテレビ社長松波氏は「二科会とCBCは北川民次先生の時代から長い繋がりがあり、CBC本社には北川先生が制作された壁画も健在で、在野の雄としての二科会が今年もこれほど大勢の出席者が受賞者を祝福しておられる姿に感動致しました」と述べられた。二科会では出品者が制作に励むことはもとより、二科会を応援してくださるファンあつての二科会だと痛感しました。出品内容は絵画178点、彫刻20点、デザイン134点、写真250点と充実した内容で、当日券(1,000円)を買って入場して下さる方が1日50人、70人と多く、入口に座っていて感激しました。これからの東海支部を担っていく近藤隆弘さんが最高賞の二科賞に、又二科新人賞に今泉歌奈子さん、さらに特選や会友推挙、会員推挙の作品が会場に若々しい空気を漂わせお客の目を楽しませていました。各部門が刺激し合い幅広い視点で物事を見ている人の作品が多かった事が、108巡回東海展が成功した根幹だと思っています。(堀尾一郎)



巡回大阪展は2024年10月31日より11月10日まで、昨年同様、兵庫県尼崎市総合文化センターで開催しました。大阪市立美術館改修工事のための臨時会場ですが、スペースの都合により、絵画101点(全国巡回作品9点、関西の会員大作7点、会友28点、一般57点、彫刻5点(会員4点、会友1点)、デザイン104点、写真133点の



大阪展

令和6年10月31日
～11月10日
尼崎市総合文化センター

総出品点数343点の展示になりました。本年度の関西支部の絵画部は、入選者数が減ったものの、受賞・推挙者を含めた2点入選が多く、そのため巡回作品が9点に制約されました。狭く暗い会場ですが、今回はスポットライトを多めに増やし、閉塞感をなるべく無くすよう努めました。また、少しでも本来の二科展のイメージを来場者に伝えるために、今回も会場にモニターを設置し、展示のできなかった絵画彫刻作品37点のスライドムービーを放映しました。併催の「第73回こども二科展」や「ワンポイントアードバイス」、デザイン部主催の「Web全国ポストカードデザイン大賞」などの展示を加え、今回も阪神地域の秋の文化イベントとして幅広い世代に向けてアピールしました。結果、総入場者は10,276人と、昨年(10,270人)と少しですが増加しました。次の109回展は、改修工事が終わった大阪市美術館での開催が決まっております。待ちに待った本来の会場での開催に向けて、バリエーションアップした展覧会になるよう頑張りたいと思っています。(高畑 彰)



第108回巡回京都展は、11月末の気候の良い時期に開催することが出来、例年より暖かく会期中天候にも恵まれ、連日多くの来場者があり盛況のうちに終了することが出来ました。入場者数は、6日間の短い期間ながら、5,542人と昨年より174名多い人数となりました。絵画部は全国巡回53点、地元63点、彫刻部は全国



京都展

令和6年11月26日
～12月1日
京都市京セラ美術館

巡回9点、地元3点の計128点の作品を展示、絵画部の京滋関係の受賞者は、特選（久保寺二三、山本郁夫）、会員推荐（田中正子、福島菜葉）、会友推荐（鈴木健一、橋本則子）、巡回京都展の京都新聞賞（瀬川ゆかり）の各氏でした。デザイン部は、全国巡回作品60点と京・滋関係の4点計64点を展示、写真部は、京滋地域の会員や会友の作品、一般公募の単写真部門、組写真部門、アトフォト部門、そしてyoung部門の入選・入賞作品を中心に80点を展示しました。

会期中11月29日に実施した、黒川彰夫理事によるギャラリートークも、多くの来場者が参加され、熱心に聞いておられました。また当日は久しぶりに懇親会も開催出来、担当会員の新しい進行で、和やかな楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

今回も京都市美術館の独特な空間で、絵画と彫刻との融合展示、また写真部、デザイン部との4部門展示は、バラエティーに富んだ良い展示空間となり、来場者も楽しく観覧されていたようです。（古保木雄二）



富山展は一貫して地元の富山テレビ放送の主催を得て開催しています。

今回の展示数は、絵画92点、彫刻11点、デザイン50点、写真220点の計373点で、二科展の魅力が多角的に伝わるよう工夫しながら展示、構成をしました。

今回、二科会から、生方理事長が来県され、開会式で挨拶、テーブルカット、そ



して作品解説を通じて来場者に変魅力的なお話をいただきました。

12月の富山は天候には恵まれない日が続きましたが、それでも鑑賞された皆さんから、「大作も多く、4部門の多様な作品が揃い、見ごたえのある展覧会だった」との声を多くいただきました。

また、初の試みとなる4部門によるギャラリートークも好評でした。

令和とともにスタートした富山支部の中には、能登半島地震で大きな被害を受けたメンバーもいたため、開催にあたり心配もありましたが、全員で協力して富山の皆さんに二科展の魅力を届けることができ、支部としても実り多い巡回展となりました。（柳田邦男）



二科展鹿児島巡回展は、「鹿児島に春を呼ぶ美術展」として、70数年にわたり親しまれている。

今回は第108回展の内閣総理大臣賞をはじめ、受賞作品、会員の絵画・彫刻・写真・デザインの巡回作品、鹿児島地元作家や宮崎県会友を含む作品220点を展示した。照明工事の影響で例年より展示室が狭く、作品数が少なくなったが、それぞれが自己の世界感を表現した充実した作品の展示ができ、熱心に鑑賞してもらった。

初日の開場式、オープニングは、地元新聞社や会場の黎明館館長、協賛社、後援のテレビ局などの関係者にご列席を賜り、賑やかに行うことができた。開場式の後、西健吉常務理事が作品解説、午後は地元会員がギャラリートークを行い、二科会の画風やバラエティに富んだ作品解説、トークで多くの来場者で賑わった。

会期中の土・日曜日のギャラリートークも定着してきた。好評であったので今後も継続したい。

また、令和6年能登半島地震復興支援、今回で4年目となるウクライナ支援として、鹿児島支部同人による小作品のチャリティー販売を行った。

7日間2、452名の入場者。本展を楽しみにしている根強いファンがいることを裏付けるものとなった。

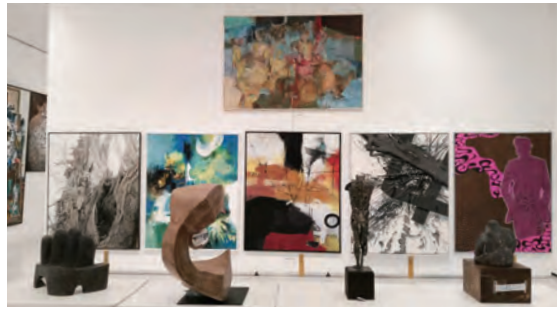
幅広い世代に鑑賞いただける二科展、芸術文化の振興に寄与できる展覧会、また、二科展ファン、若年層への訴求力を高める必要性を一考する機会となった。

来年度の巡回鹿児島展は会期を早め一月初旬に予定。改善課題もあるが、Web告知等による普及広報にも努めたい。（祝迫正豊）



4部門（絵画102人・彫刻9人・写真95人・デザイン74人）79点・写真95点・全国巡回作品と地元入選作品合わせて280人285点を展示し、3、731人の方に御来場いただきました。二科福岡支部、二科山口支部、二科大分支部、二科佐賀支部、二科長崎支部、二科会デザイン部福岡支部、二科会写真部福岡支部の協力のもと、無事終了することができました。

巡回福岡展関係分の受賞者は4人（福岡3・佐賀1）、二点入選者が8人（福岡7・佐賀1）。初入选者は4人（佐賀2・長崎1・大分1）、今後が楽しみな結果となりました。絵画部の会場が大きく2つに分かれるので、巡回作品を中心とした大作と地元作品を中心とした比較的小さな作品



とを分けて、昨年の鑑賞者のご意見をいかした展示構成としました。かなり面積が狭いため、会場構成担当の大西正昭会友を中心に工夫を重ねました。

今回は、ここ数年でなかった前夜祭を開催。理事長から心温まる励ましのご祝辞を賜りました。また現職のご来賓だけでなく巡回福岡展に多大な功績のあるOBの方にもご参加いただき久しぶりの再会となり親交を温めました。

当巡回展のみの西日本新聞社賞を理事長に選考していただき、前夜祭の中で表彰いたしました。今回絵画部は江本洋（福岡）、安増千鶴子（福岡）、西本誠

（長崎）、デザイン部は、大賀翔太（福岡）、写真部は、棚町良真（福岡）の5氏が選出されました。

ギャラリートークは、例年通りのものプラス、初日は、ご来福いただいた生方理事長の御希望により一般・会友の出品者を中心に直接作者と触れ合いながらご指導をいただきました。また最終日は、祝迫正豊運営委員（鹿児島）にご来福いただき、貴重なエピソードや制作の方法などのお話を聞くことができましたし、参加者一人一人に丁寧に関わりやすくご指導いただきました。

広報については、西日本新聞に、中野紀三朗会員（会員賞）、中村英二（会友（パリ賞・会友推挙）の出品作品と展覧会の紹介が掲載され、有明新報に、牟田志津子会友、塚本和美会友、鷹尾重徳氏の作品が掲載されました。またテレビ西日本のニュース等でも展覧会の様子が紹介され、パリ賞受賞の中村英二会友の作品紹介・インタビュ等も放映されました。また、福岡県美術協会広報誌FAS 68号に、田浦哲也常務理事の作品と展覧会の告知が掲載されました。（田浦哲也）

第四十七回 定時会員総会

令和7年6月14日午後1時より、第47回定時会員総会が東京都美術館・講堂に於いて開催された。

会員総数243名 出席会員88名、出席理事19名、出席監事2名、委任状133名により今総会の成立が確認された。

出席理事・生方純一 山中宣明
埴 珠世 田浦哲也
中島敏明 吉野 毅
島田紘一 加寛裕子
黒川彰夫 野村みそら
田川絵理 岩田 博
濱田 進 横前秀幸
粕谷正一 森岡謙二
前田耕成 登坂秀雄
出席監事・五味祥子 宮澤光造

審議に先立ち、前年度逝去された絵画部・水谷征矢生会員、田中良名誉理事長、相澤道子会員に黙祷を捧げた。議長に生方代表理事を、議事録署名人に生方、吉野、埴、各常務理事を選任し、事前配布資料によって審議に入った。

第1号議案

令和6年度事業報告・吉野常務理事
総会議案1〜10頁を読み上げ報告、これを報告承認した。

第2号議案

令和6年度決算承認の件・登坂理事・岩田理事
総会議案13〜22頁（令和6年度財務諸表）について、厳しい現状説明と経費削減努力の結果の数字の説明があり、同決算書を確認し、五味監事、宮澤監事より監査報告がなされ、これを承認可決した。

第3号議案

令和7年度事業計画報告・吉野常務理事

総会議案25〜27頁を読み上げ説明があり、事業計画が報告承認された。

第4号議案

令和7年度正味財産増減予算書報告・登坂理事・岩田理事

総会議案30〜31頁の説明報告がされ、地代家賃更新料については小林税理士から詳細説明があり、これを承認した。

第5号議案

定款第3章第6条・第7章第34条変更の件・吉野常務理事
総会議案32頁、定款変更については会員の意見もあり、また総会開催通知の不備、5号議案の委任状の有効性の質問があり、今議案は採決に至らず委任状の取り方なども再検討したうえで審議することとした。

彫刻部 部会報告

・議案審議終了後、巡回展部田浦常務理事より109巡回展作品選別、輸送等の合理化実施の予定。展覧会部山中常務理事より2025春季展報告、第109回展の方針説明。支援部山中常務理事より春季展・本展の講演、支部の支援について報告。二科ニューズ部野村理事より絵はがき改善案報告。埴事務局より次期選挙管理委員、二科会公式HPリニューアルチーフ担当者、事務局新スタッフの紹介があった。

午後3時生方理事長が閉会を宣した。

◆絵画部 部会報告

会員総会後引き続き、同会場に於いて絵画部会が開かれた。絵画部企画春季展S20コンクルの成果において、展覧会部山中常務理事により各地支部展でも公募、展示をするなど出品を広げるような取り組みについて、出席支部長の各地支部展の状況報告が促され、S20コンクルの展開など意見が述べられた。またAI作品、デジタル作品の使用画像の著作権、プリント加筆などの認識についての確認などがあった。（N）

◆彫刻部 部会報告

今年度彫刻部会は定時会員総会前に開催された。吉野彫刻部代表による挨拶後、議長（吉田（二）運営委員）選出。彫刻部定時総会成立の確認、新会員・会友の紹介、退会者の報告がなされた。次に吉野展示委員長より第109回二科展についての説明。彫刻部収支報告後、審議事項に入る。

- ①次期選挙管理委員に、川本（拓）会員が承認された。
- ②関東会員の業務負担の軽減について、実効策等々説明・意見交換された。事務4名を以前に戻し3名体制にすることを承認。
- ③運営委員より定時会員総会第5号議案について説明され意見交換された。
- ④109回、110回記念二科展について、109回展に關してはほぼ昨年同様で実施する。
- ⑤「カテゴリー30」については109回展までは昨年同様とし、110回展に向けて検討委員が任命された。
- ⑥出品者・観覧者を増やす工夫について、広報部活動報告がなされた。
- ⑦本展、春季展の新しい工夫など、意見交換がなされた。最後に事務連絡事項と千葉伸子会員の事務任期満了の報告があった。（S）

名誉理事長

田中 良氏



二〇二四年十二月二十日逝去
享年101歳

略歴

一九五三年 第38回展初入選
一九五八年 第43回展特選
一九六〇年 第45回展会友推挙
一九七四年 第59回展会友賞
一九七六年 第61回展会員推挙
一九八五年 第70回展 会員努力賞

二〇一二年～二〇二二年

二科会理事長

二〇二二年～二〇二四年

二科名誉理事長

北の草原

第108回展出品作



田中良名誉理事長の

ご逝去を悼む

生方純一

田中良名誉理事長が、
2024年12月20日に101歳
というご高齢を全うされ、
ご逝去されました。此処に
ご冥福をお祈り致します。

先生は太平洋戦争の末期
に兵役に就かれましたが、
戦地には赴かず終戦となり、
北海道の道東で教員になり、
終生北海道の原野をモチー
フとして描き続け、昨年の
第108回二科展にも新作を登
表されています。

先生は2012年に二科
会理事長に就任され、5期
10年間に亘り会のご指導を
いただきました。常に笑顔
を絶やさず温厚に会員、会
友、一般出品者、鑑賞者に
も接して来られました。ま
た展示や運営面でも若手の
提案や意見を尊重し、大ら
かな心で受け入れて下さい
ました。

任期中は世界的なコロナ
禍の蔓延もあり、展覧会の
開催が危ぶまれる状況に追
い込まれる時期もあり、出
品者、入場者の減少という
苦境の時も、持ち前の笑顔
で会を結集していただきま
した。

合掌

絵画部 会員

相澤 道子氏



二〇二五年一月十八日逝去
享年90歳

略歴

一九六二年 第47回展初入選
一九六六年 第51回展特選
一九六八年 第53回展会友推挙
一九七一年 第56回展会友賞
一九七二年 第57回展会員推挙
一九七五年 第60回展 会員努力賞

絵画部 会友

平川 富貴子氏

二〇二五年一月一日逝去
享年93歳

略歴

一九七九年 第64回展特選
一九八三年 第68回展会友推挙

絵画部 会友

田口 郁子氏

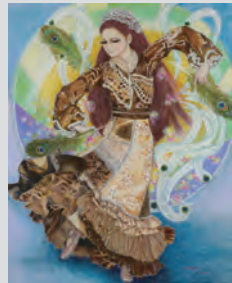
二〇二五年一月二十二日逝去
享年90歳

略歴

一九八八年 第73回展特選
一九九六年 第81回展会友推挙
二〇〇二年 第87回展会友賞

絵画部 会友

吉田 多鶴恵氏



Lumiere rise 第107回展出品作

絵画部 会友

吉田 多鶴恵氏

二〇二五年二月二十八日逝去
享年90歳

略歴

一九九九年 第84回展特選
二〇〇八年 第93回展会友推挙
二〇一三年 第98回展会友賞

絵画部 会友

斎藤 孝男氏

二〇二五年六月九日逝去
享年88歳

略歴

一九八〇年 第65回展特選
一九八三年 第68回展会友推挙
一九八六年 第71回展会友賞

第109回二科展 日程表

8月

21日(木) 搬入(業者・個人)
22日(金) 搬入(個人) 16時まで
23日(土) 26日(火) 審査
27日(水) 入落通知発送
29日(金) 30日(土)

9月

1日(月) 2日(火)
個人選外作品搬出
2日(火) 展示日
3日(水) 展覧会初日
オープニングトーク

「彫刻」10時30分
作品研究会・U35講評

「絵画」11時
授賞式・推挙式
「絵画・彫刻」12時
懇親会16時

7日(日) ギャラリートーク
「彫刻」14時
9日(火) 休館日
13日(土) ギャラリートーク

「絵画」13時
支援講座13時30分
ワークシヨップ
15時20分
展覧会最終日
14時まで

15日(月) 展覧会最終日
16日(火) 搬出「絵画・彫刻」
17日(水) 搬出「絵画」

第109回二科展 巡回展日程(予定)

◆大阪展

大阪市立美術館
令和7年10月29日(水)
11月9日(日)

◆京都展

京都市京セラ美術館
令和7年11月25日(火)
11月30日(日)

◆東海展

愛知県美術館ギャラリー
令和7年12月17日(水)
12月21日(日)

◆鹿児島展

鹿児島県歴史・美術センター
令和8年1月11日(日)
1月18日(日)

◆福岡展

福岡市美術館
令和8年1月27日(火)
2月1日(日)

一般の出品規約は
下記のQRコードから
ダウンロードできます

彫刻部



絵画部



第109回二科展 企画案内

■支援講座

◎中原史雄名誉理事
講演

「頑張らない。けど前を向く」

60年余り二科展に出品してきた経験を通して、存在感のある作品を描くには何が必要か自論を述べます。自由に描けない才能が無いのではなどネガティブな考えを捨ててチャレンジする気持ちが何より大切、そして描ける喜びを感じ明るく描こうとする意識を持つこと。制作の発想、表現、画材などに触れながら、あなたの前を向くアシストができます。

ワークショップ

「ピカソを創る」

ピカソが描いた女性の顔を使ってデフォルメの魅力と新たな空間づくりを体験します。

日時：9月14日(日)

講演：13時30分

ワークショップ：15時20分

場所：国立新美術館 講堂
応募：参加ご希望の方は左のQRコードでアクセスいただけますか、二科会ホームページをご覧ください。

参加費：3,000円

定員：90名(先着順)

参加申し込みは

こちらから↓



■休憩室企画

1 階休憩室 C・D

二科ショップで図録、絵葉書、チャリティー作品の展示・販売を致します。

2 階休憩室 A・B

2025 春季展
NIKA+nika/S20の受賞作家やオーディエンス賞作家の選抜展示をします。

3 階休憩室 A・B

二科会是全国で支部展や巡回展を開催しており、二科展は全国支部からの出品者が支えています。二科会全国支部活動と巡回展の活動の様子が一目で俯瞰できるよう、「空からみた二科・全国地図」を企画し特別展示します。

■U35ユースの会

展覧会部 山中宣明

若手作家のコミュニケーションの場として昨年発足したU35ユースの会は今年もさらに輪を拡げるべく継続します。9月3日10:30より新人奨励室に大集合してください。

■会員作品絵葉書作成

参加のお願い

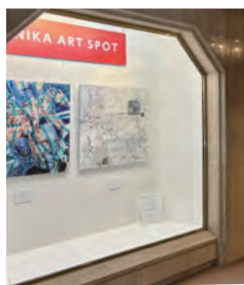
二科展会員作品絵葉書は、自費負担の申し込み制で作成し、二科ショップで販売いたします。ショップの充実のため、出品作品の記録のためにも、絵葉書作成の申込・振込用紙をご確認の上、ご協力をお願いいたします。

二科展 入場料改定のお知らせ

	当日券	二科チラシ割引	団体(20名以上)
一般	1,400円	1,200円	1,200円
大学/高校生	1,200円	900円	600円
中学生以下	無 料		

障害者とその介護者1名は無料です。

■二科展のチケット・招待券をお持ちの方は二科展会期中に限り、国立新美術館の企画展を割引料金にてご覧いただけます。他割引との併用はできません。



■中和ギャラリーにて
NIKA+nika/S20 最優秀賞
笹島裕美さん個展開催予定

■帝国ホテル東京本館中2階
「NIKA ART SPOT」
NIKA+nika/S20 優秀賞作品展示

〔前期〕
2025年5月8日～11月12日
谷 いづ美・平山 輝

〔後期〕
2025年11月12日
～2026年5月8日
瀬川 ゆかり・番場 美和子

事務局だより

令和の米騒動と言われるようにあらゆる物の価格が上がり、国立新美術館会場が使用料も二百万円の値上げが予定、二科会事務所地代更新料等と相まって、頭の痛い経済状況です。その様な実情をご理解頂き、皆様には多方面からの見直しに對するご協力に感謝申し上げます。

2年目を迎えたS20号コンクルの反響は大きく、これも各支部や会員の皆様のお力添えの賜物と感じます。人気のある参加型のオーディエンス賞。賞品とし

2025春季二科展の展示者数と展示点数

会場：東京都美術館 会期：2025年4月18日～5月2日

	(絵画)		(彫刻)		展示者数	展示点数
会員	145名 (個展会員3名 会友1名含)	160点 (個展19点含)	56名 (会友9名含)	56点 (会友9点含)	201名	216点
選拔者	36名 (賞4名)	36点	7名	7点	43名	43点
S20入選者	179名	190点			179名	190点
計	360名	386点	63名	63点	423名	449点

【NIKA+nika/S20号コンクール】出品 299名・463点 入選 179名・190点(二点入選11名)

二科会 Instagram

二科展の様々なシーンを発信しています



ART_NIKA_NIKATEN

て生方理事長から小品をご提供いただけたという思いがけないサプライズに授賞式では受賞者は勿論のこと、周囲の方々からも感嘆の声が上がりました。素敵な最終日を飾る事ができました。二科会のトップとして、常に細やかなお心遣いに心温まるものを感じます。

二科会公式HPは110回展に向けてリニューアル契約が正式に決まり、次世代メンバーによる活躍が期待されます。3年前、「わが二科会は永久に不滅です」と99歳で理事長退任時に笑顔で発言された田中良先生が、次の世代に二科会を託し昨年12月20日ご逝去されました。常に新しい事にチャレンジし、改革している二科会の魅力的母体を活かし、昨今の運営的に厳しい状況を乗り越え、二科会不滅の未来に繋げていきたいと思ひます。やさしさと、笑顔を忘れないようにして。

事務局長 埴 珠世

編集後記

◇今号は紙面を4ページ軽量化してお届けします。レイアウトは従来の踏襲にとどまりましたが、次なる更新を前提に、会員と出品者と共に二科展覧会を記録する会報紙としての新たな形を試行したいと考えています。昨今は、今までと同様の継続が保証されるとはいかない、経験で蓄積したはずの手法や価値観に固執することではすまない状況の変容があります。守るべきは守り、進むべきは進む手だてが見いだせることを期して…… 12ページの春号です。◇彫刻部編集委員は上田快会員から角谷豊明会員に交代しました。(N)

編集委員

委員長	寺田 真
委員	山 渡 俊文
委員	酒 井 とし子
委員	山 口 博 司
委員	山 岡 明日香
委員	角 谷 豊 明
委員	田 浦 哲 也
委員	野 村 みそら

令和七年六月二十日発行

公益社団法人 二科会

T16000022

東京都新宿区新宿4-3-15

レイフット新宿 501号室

電話 03(33554) 6646

FAX 03(33554) 4768